



切絵 比企義彦 作



茨木神社社報

発行所

茨木神社社務所  
茨木市元町4-3

072 (622) 2346

[http://www.  
ibarakijinja.or.jp/](http://www.ibarakijinja.or.jp/)

摂末社

## 覆屋造営竣功御礼

茨木神社宮司 岡市正規

平成二十年一月二十五日、仮遷座祭を斎行し、天満宮・主原神社・多賀神社・皇太神社の大神様に仮殿へお遷りいただいた後、二月二十日に地鎮祭、七月二十日に上棟祭を斎行、工事も順調に進みこのほど白木も芳しく竣功いたしました。そして去る十二月十九日の浄夜、総代を始め多くの方々のご参列のもと正遷宮祭を斎行し、大神様に新しくなった覆屋内のご本殿にお遷りいただき、翌二十日は奉祝祭を斎行いたしました。

旧上中条村氏神さま皇太神社は昭和五十九年に現社殿に造替されましたが、旧主原村氏神さま主原神社、旧下中条村氏神さま多賀神社の覆屋はいずれも百年以上の歳月が経ち毀損が目立ち永年の懸案となっております。そうしたなか平成十九年に天石門別神社がこの処にご鎮座されて千二百年に当たるとともに平成二十年は旧各村の氏神さまが当神社に合祀されて丁度百年にあたることからこの佳節を奉祝すべく一昨年、総代会で記念事業委員会が結成され、昨年のご本殿御垣内内庭の改修、石門別神社御鎮座千二百年大祭、そしてこの度の天満宮・事平神社を併せた覆屋造営となった次第です。

覆屋は、間口四間、奥行二間半の入母屋隅懸の造り。入母屋造りの屋根に、破風が絶えるようにしている社寺独特の造りになっています。また、事平神社の下屋庇は絶える破風とのバランスを考え設計され、大工方・板金方の豊富な知識・経験と技術を駆使し、緻密で繊細な仕事をしていただきました。

歴史と伝統を受け継ぐにふさわしいこのような美しい姿に改まりましたことは、この上ない喜びであり感謝に堪えません。ご関係各位には多大なるご支援御協賛を賜りましたこと心より厚く御礼申し上げます。

撰末社 覆屋御造営

### 各社の御由緒

#### 皇太神社

合祀前の上中条村氏神。上中条村は、もと中条荘に属していましたが、慶長七年（一六〇二年）に上中条村として成立。

創建は不明ですが、神社明細書によれば天石門別神社東側に鎮座する撰社皇太神宮は、かつて上中条村近くの茨木川の傍に鎮座し、宮地を「五十鈴森」茨木川を「身潔川」とも五十鈴川」とも呼んでいたと伝え、上中条村成立期の文禄・慶長時代の茨木城惣構形成過程で現在地へ奉遷された」と記されています。この経緯が同村における皇太神社創祀由縁とも推測されます。現社殿は、昭和五十九年（一九八四年）上中条氏子の篤志にて造営され、年数も浅いことからこの度若干の修復を施し新宮地へ移築・奉遷しました。

#### 主原神社

合祀前の主原村氏神。「天正十年（一五八二年）九月十日奉

修造撰津国太田郡主原神社」の棟札によって、それ以前の創建と考えられます。

主原村の成立については不明ですが、建長二年（一二五〇年）の勝尾寺文書に「主原村」の文字が初見されます。また文禄二年（一五九三年）の検地以後に茨木村に属したと伝えられています。

本殿は、御扉をはじめ板壁並びに全ての部材に彩色が施されており、覆屋造営にあたり学術調査を実施したところいずれの彩色も現本殿造営時のものであり、江戸初期まで遡る可能性があるとの結果を得ました。

#### 多賀神社

合祀前の下中条村氏神。下中条村は、もと上中条村・五日市村・畑田村・田中村・春日村を併せ中条荘に属していましたが文禄三年（一五九五年）に下中条村として成立。

創建は寶永二年（一七〇五年）と旧本殿に墨書されています。この度、以前の桁行一尺六寸柿葺流造の本殿を廃し、桁行二尺三寸柿葺流造にて新たに造営しました。

#### 事平神社

創建時期・由緒不明ですが、寶曆十二年（一七六三年）奉納の石燈籠によって、それ以前の創建であること、また寛政十年（一七九八年）刊行の「撰津名所図会」には描かれていないことから、以降に他処から当社に合祀されたことがわかります。

御祭神の中で金山彦命は、主原村の金御嶽神社（現御旅所）に祀られていたが明治四十一年金御嶽神社を廃し事平神社へ合祀されました。

金山彦命は、古代より鉾山及びその製鍊等の守護神として信仰・奉祀されたことから、古代における此の地域と鉾物製鍊との関係を伺うことができます。

#### 天満宮

本殿は春日造り柿葺き。

創建について神社明細書に「楠正成公 建武年間茨木二城ヲ築キ撰津国ノ政務ヲ行ハシム 此ノ時楠公自筆ニテ菅公ノ聖像ヲ謹写シ 以テ当城之鎮守トス」と元茨木城内に鎮座されたことが記され、さらに「万民ニ崇敬セラレシ処ニシテ外ニ比類ナキ聖像ナレハ諸人必逃レ難キ危難

### 献詠

（平成二十年新年の句）

#### 火串会

よき日和和称へて笑まふ発句会  
倉垣刀美子

子も座して肩寄せ合ひし初諷経  
岡田 晴江

子の千支門潜りて進む初詣  
岡本 靖子

金色に闇を解きて初日かな  
河辺さち子

白鷺に逢ひたることも今朝の春  
北川 三郎

今年また鳥居新装恵方詣  
北川 一志

鏡餅開きは夫の大仕事  
北川 睦子

おみくじを固き冬芽の枝に結ぶ  
倉垣 政一

地球てふ美しきもの初茜  
高橋 千雁

初鴉声晴る千木の空広し  
田中美佐子

境内の人を包みぬ四温晴  
谷本 房子

張る綱に詰めつつ結はへ初みくじ  
辻 たかし

災厄ヲ免ンコトヲ依頼シテ靈驗  
 蒙ル者多シトテ昼夜詣人多シ  
 と庶民の崇敬篤き様子が記され  
 ています。同宮は茨木城廢城に  
 より元和三年(一六一七年)五  
 月二十五日に当地へ奉遷され、  
 明治十二年村人の奉願により村  
 社に列せられました。



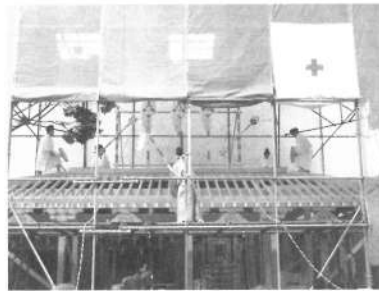
### 正遷宮

平成20年12月19日齋行



### 上棟式

平成20年7月20日齋行



### 地鎮祭

平成20年2月20日齋行



### 奉祝祭

平成20年12月20日齋行

## 黒井の清水大茶会

去る十月二十五日(土)二十  
 六日(日)茨木市観光協会主催  
 の「黒井の清水大茶会」が開催  
 されました。

当神社境内北側にある黒井の  
 清水は、「茨木故事雑記」によ  
 ると「天正十一年 正月秀吉公  
 茨木城二入り之時神祠境内ノ之  
 清水ヲ用テ御茶ヲ煎ス公賞テ黒  
 井ノ清水ト名ク其後大阪ノ城ヨ  
 リ日々之ヲ汲令ム」と記され古  
 くから名水として愛されていま  
 した。これにちなんで平成十二  
 年より文化的活性化事業として  
 催されてきました。

当日は、お茶席の他、茨木市  
 物産振興協会による茨木の物産  
 品の即売会やお楽しみ抽選会、  
 茨木音楽芸術協会によるコンサ  
 ート、お茶会に使用する水を使  
 った喫茶コーナー「黒井のca  
 fe」なども実施され、終日た  
 くさんの方で賑わいました。

## 茨木神社雅楽会創立二十周年

平成元年に、茨木在住の元宮  
 内省楽部島村政章先生を招聘し、  
 神職を中心に五名の会員で発会  
 してより二十周年節目を迎えら  
 れました。現在は、八坂雅楽会

寒椿凜と咲きある忠魂碑  
 西山えい子

梅探る心に宮を訪ふ日和  
 林 曜子

臘梅の固き蕾や日を返し  
 武藤千代子

初鏡きざむ歳月いつはらず  
 森脇甲子朗

拝殿の人にまぎれし初詣  
 八木 徹

天恵の溢れんばかり初日の出  
 安村 昌禧

三川に大日輪の初御空  
 山田 国夫

聆々と瑞雲したがへ初日の出  
 山本 尚一

新春や神社に集ひ句を披露  
 山本美佐女

等で活躍されておられます赤木  
 真知子先生に師事し約二十名の  
 会員が研鑽されています。

神社の春祭・夏祭の雅楽奉納  
 を始め、天石門別神社御鎮座千  
 二百年大祭には、神楽「豊栄舞」  
 ・舞楽「蘭陵王」を奉納、今回  
 の覆屋御造営の諸祭にもご奉仕  
 いただきました。

雅楽会の益々のご繁栄をお祈  
 りいたします。

シリーズ神道 29

五色布について

五色の布は、御神前の威儀具として設けられる真榊や、上棟祭の折、屋根の上に付けられる吹き流し、また、神輿渡御の行列の五色旗など様々なものを用いられています。古くは『延喜式』に神前に供える幣物として「五色幣の料の絹」「五色の帛」「五色物」とあり、五色の幣帛がかかせぬものであったことが窺えます。これは今日でも変わらず、宮中から勅祭社に奉獻される幣帛は五色の布帛であり、神前に供える御幣も白色のほか、五色のものが用いられています。

この五色とは、古代中国に成立した陰陽五行説に基づくもので、我が国にも受容されました。この説は宇宙間の森羅万象を、五元素である「木・火・土・金・水」のおこない（作用）によ



り具象化されたものとして捉えます。この五元素は、色彩のほか、方位や季節、



時間、十干、十二支、惑星、内蔵、人間精神などさまざまな事象に当てはめられています。ですから五色は天地万物を組成している五つの要素の象徴であり、宇宙そのものを表したものであることができます。

具体的に「木・火・土・金・水」を色彩で表すと「青・赤・黄・白・黒」の順序となり、方位では「東・南・中央・西・北」を示すので、「土||黄||中央」が最も尊貴であるとも考えられています。また、神社殿内装飾として用いられる四神旗に描かれている四方位の霊獣も、それぞれ五行に配されており、貴き中央を除き、「東||青龍」「南||朱雀」「西||白虎」「北||玄武」となっています。

現在、真榊や五色旗に用いられている五色布は、真榊の場合には端から中心に向かって、緑（青の代用）・黄・赤・白・紫（黒の代用）の色の順に、上棟祭の吹き流しで一列に並べる場合は、東方から緑・黄・赤・白・紫の順に並べるのが通例となっております。

り、順序が異なりますが、意味には相違がないことと思われます。

『神道いろは』（神社本庁教学研究 所監修・神社新報社発行）より

御奉納報告

末社稲荷神社には、木製の朱塗鳥居四基と石の鳥居一基が参道にありますが、そのうちの朱塗鳥居二基が長年の風雨で朽ちてしまい危険な状態にありました。この度、土方正英様、山野寿様、若林三雄様、木本誠一様、阪上博史様、竹村ルミ子様より立派な樹脂製の鳥居を御奉納いただきました。厚く御礼申し上げます。



これからの主な神事

十二月三十一日 越年祭

一月一日 歳旦祭 午前十時

新年を祝い、皇室の弥栄と国の隆昌、氏子崇敬者の安泰を祈ります。

一月九日〜十一日 十日戎祭

宝恵箆巡行や福笹吉兆を求める人で賑わいます。

一月十五日 御火焚(とんど) 祈禱木奉焼祭

二月三日 節分祭・鎮魂星祭

厄除祈禱・神楽奉納

二月十一日 紀元祭

二月十二日 初午祭

四月八日 人形奉焼祭

四月十八日

春祭・奉賛会厄除安全祈願祭

